



第18回 天文文化研究会

日時：2019年10月26日（土），27日（日）
場所：大阪工業大学 梅田キャンパス 12階ゼミ室1
(〒530-8568 大阪市北区茶屋町1-45)

プログラム

10月26日 午後1時～5時

- 13:00- 松浦清 ご挨拶
真貝寿明 「天文文化学の創設」科研費採択について
- 13:15- 山下克明（大東文化大学東洋研究所研究員）
星座木簡と古代の星図
- 14:45- 参加者自己紹介
〈休憩〉
- 15:30- 勝俣 隆（長崎大学名誉教授）
星座神話としての日本神話研究の達成と課題、今後の展望
- 18:00- 懇親会@

10月27日 午前10時～12時

- 米田達郎 江戸の科学書を中心に見た十二宮の名称について-双児宮 を中心に-
- 西村昌能 記紀に見られる星の神様-経津主考-
- 松浦清 星曼荼羅研究の課題
- 真貝寿明 科研費研究課題『天文文化学の創設』の目指すもの
(飛び込み歓迎, 時間配分自由)

謝辞

本研究会は、科学研究助成費・挑戦的研究(萌芽)19K21621『天文文化学の創設：天文と文化遺産を結ぶ文理融合研究の加速』の助成を受けて開催しております。本科研費に関するウェブページ

<http://www.oit.ac.jp/is/shinkai/tenmonbunka/project.html>

では、これまでの天文文化研究会の記録を公開しております。

招待講演 概要

山下克明（大東文化大学東洋研究所研究員）

星座木簡と古代の星図

概要：星座に関する古代の二つの資料を取り上げる。一つは千葉県袖ヶ浦市の遺跡から約20年前に発掘されていた9世紀の呪符木簡。そこには北極星三星を中心に六つの星座が配されており、北天の中枢部を表わした「紫微宮星座木簡」と称してよいもので、その意味を考える。もう一つは土御門家旧蔵の『格子月進図』。戦災でモノクロ写真を遺すだけだが、最近の研究では初唐の制作とされており、この謎の星図を古代天文道史の中に位置づけたい。

勝俣 隆（長崎大学名誉教授）

星座神話としての日本神話研究の達成と課題、今後の展望

概要：星座神話として日本神話を解釈する研究は、今どこまで進んでおり、残された問題点は何かを説明し、今後の研究はどうあるべきか、方向性を示したい。具体的には拙著『星座で読み解く日本神話』を中心として、賛否の論に対する筆者の見解を示し、未解決な問題、新たに検討すべき課題を、今後どう考察すべきか論じ、忌憚ないご意見を賜りたい。

参加登録者（26日/27日）

有木 彩華 (y/n)	高橋 あやの (y/y)	谷口 耕生 (n/y)
石田 淳 (y/y)	徳田 明仁 (y/y)	山本 誠 (y/n)
白 雲飛 (y/y)	鳥居 隆 (y/y)	吉田 薫 (y/y)
大地 亜希子 (y/y)	西村 昌能 (y/y)	米田 達郎 (y/y)
勝俣 隆 (y/y)	松浦 清 (y/y)	
作花 一志 (y/n)	三浦 泰保 (n/y)	
清水 健 (n/y)	山下 克明 (y/y)	
真貝 寿明 (y/y)	横山 恵理 (y/y)	